

パネルディスカッション6

「Colitic cancer の病態・診断・治療」

司会 山本 博徳（自治医科大学）

池内 浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患外科）

潰瘍性大腸炎（以下 UC）の内科的治療の進歩は著しく、長期経過例も増加している。それに伴い炎症性発癌症例は増加している。長期経過例に対する内視鏡的サーベイランスの有用性は確立しているが、炎症性発癌症例と通常発癌症例の診断は容易ではなく、治療法も異なるため、慎重な鑑別診断が要求される。UCに合併する dysplasia や癌症例に対する内視鏡的治療の有用性や、術式の選択に関しては一定の知見が得られていないのが現状である。このセッションでは内科医と外科医の活発なディベートを期待している。